【計画名称】道の駅「どんぐりの里いなぶ」・どんぐりの里整備計画

計画概要

◆計画期間　平成27年度～平成31年度

◆計画の目標

本計画は、道の駅「どんぐりの里いなぶ」を交流拠点の中心とする「どんぐりの里整備計画」に基づき整備するものである。稲武地域は豊田市の北の玄関口であり、道の駅「どんぐりの里いなぶ」は、国道153号及び国道257号が交差する愛知・長野・岐阜・静岡の四県を結節する交通の要衝に位置する。平成17年の市町村合併以前の稲武町時代（平成11年3月オープン）に観光等の情報発信、地元特産品等の販売を通じた地場産業育成・地域振興・雇用創出を目的に設置。

また、周辺には「どんぐりの湯」や「福祉センター」なども併設し、観光交流の促進、地域の健康・福祉の拠点として周辺整備を図ってきた。しかし、稲武地域は、少子高齢化・過疎化が急速に進み、地域社会や地域経済に大きな影響が出始めている。このような課題を解決するため、道の駅「どんぐりの里いなぶ」を地域経済を支える地方創生拠点として拡充・機能強化を図り、併せて「どんぐりの里整備計画」を進めるものである。

◆計画の成果目標（定量的指標）

指標①：道の駅「どんぐりの里いなぶ」地域振興施設、「どんぐり横丁」の利用客数（年間）

当初現況値(H27)　449千人/年　⇒　目標値（供用後）494千人/年

指標②：豊田市稲武地域バス（どんぐりバス）の利用者数（年間）

当初現況値（H27）10,451人/年　⇒　目標値（供用後）10,451人/年

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
【A　基幹事業】	123.6百万円		
道路拡幅	18.6百万円	交通結節点区域に隣接する歩道設置事業は遂行済み。平成31年度の多目的広場（単市事業）の整備に伴い、歩道を設置した。	100%
交通結節点整備	105百万円	約2,900㎡において整備を実施し、平成30年4月に利用開始した。平成30年度に身しょう者用駐車マス保護屋根を整備した。	100%
合　　計	123.6百万円		

※事業費は実績額
※進捗率（%）は各事業の計画に対する実施割合　【整備量ベース】

事業位置図

稲武小
文
神田
JA
稲武中
文
山田医院
稲武支所
稲武支所西
桑原
どんぐりの里
いなぶ
瑞龍寺
稲武町
岡田屋
257
200 m
©NTTインフラネット

交通結節点整備事業
道の駅
どんぐりの里いなぶ
道路拡幅事業箇所
100 m
©NTTインフラネット,DigitalGlobe Inc.

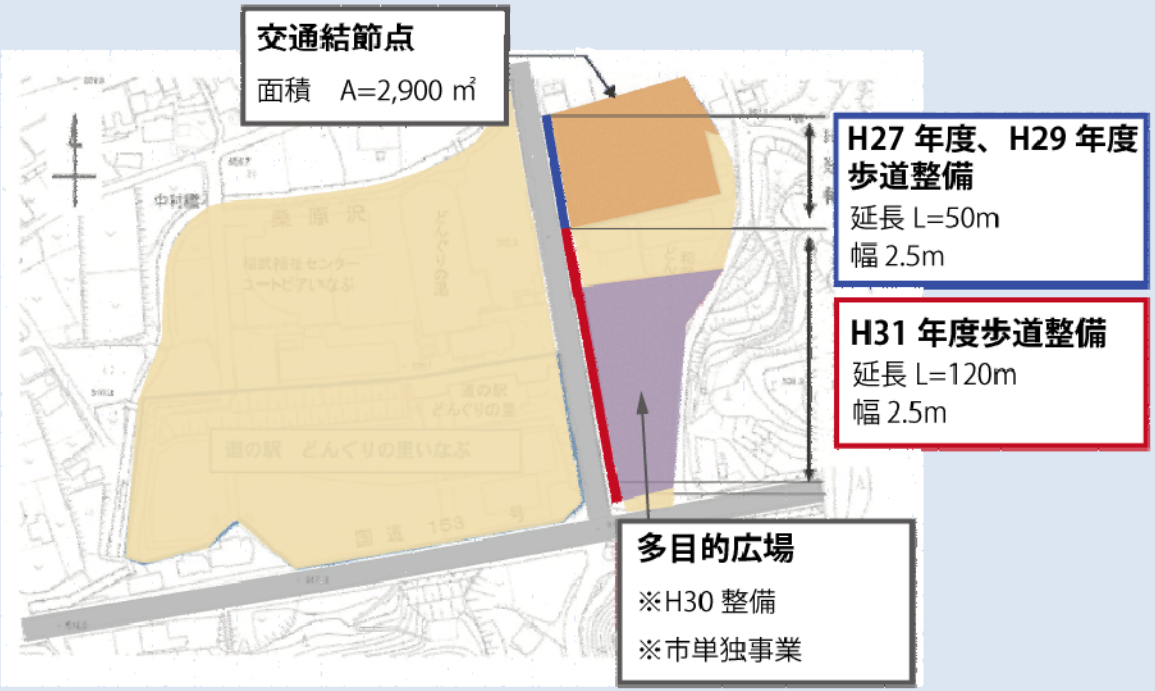
◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

Ⅰ定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

【基幹事業（道路拡幅）】

■事業効果
・道路幅の拡張により、「道の駅」機能拡充に合わせた**歩行者空間の整備を実現**
・歩行者と車両の動線が分離され、「道の駅」利用者の**安全で快適な歩行空間を確保**

A-1　市道稲武針原線（歩道整備、延長L=170m）

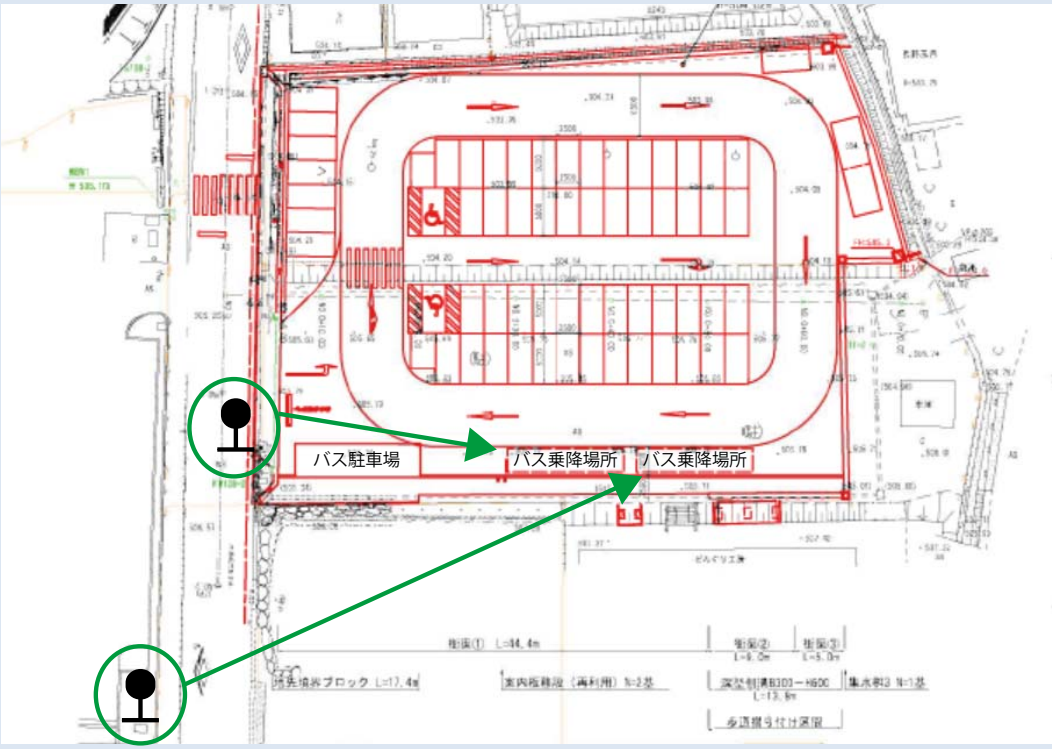


Ⅰ定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

【基幹事業（交通結節点整備）】

■事業効果
・デマンドバス（予約制バス）やチャーターしたバス利用による**稲武地区内観光拠点**
・大型バス乗入対応による、**道の駅利用者の増加**
・計６路線が乗り入れる公共交通の結節点として、稲武地域、豊田市内だけでなく、愛知県設楽町、長野県根羽村にも**公共交通で利用できる地域拠点**
・市道上にあった「どんぐりの湯前」バス停を移設し、**乗客乗降時の周辺環境の安全性確保**
・**通学・通院用の利便性確保**

A-2　市道稲武針原線（交通結節点整備、面積A=2,900㎡）



Ⅱ定量的指標の達成状況

事業目的

①観光客に対する、稲武地域の観光の**情報発信**や**地域産業育成**

②地域住民に対する、**地方創生拠点**としての機能強化

評価指標

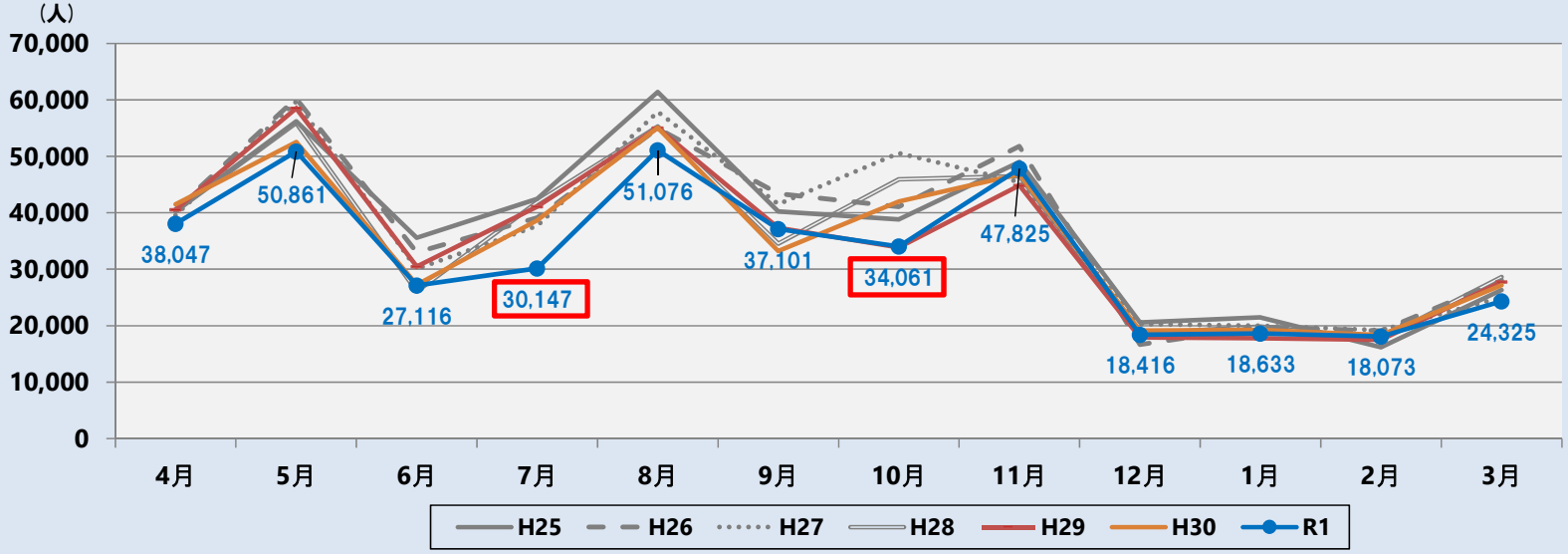
①「どんぐり横丁」の利用客数

②「どんぐりバス」の利用客数

指標①（道の駅地域振興施設「どんぐり横丁」の年間利用客数）

当初現況値(H27)	449千人	目標値と実績値に差が出た要因	夏休みシーズンである７月と本施設の繁忙月である10月の入込客数が大きく落ち込んでいることから、天候不良による入込客数の減少が影響していると考えられる。
最終目標値(R1)	494千人		
最終実績値(R1)	396千人		

※「どんぐり横丁」：道の駅「どんぐりの里いなぶ」を形成する**地域産業促進施設**であり、地域特産品等の物販を行う。



（庁内資料より作成）

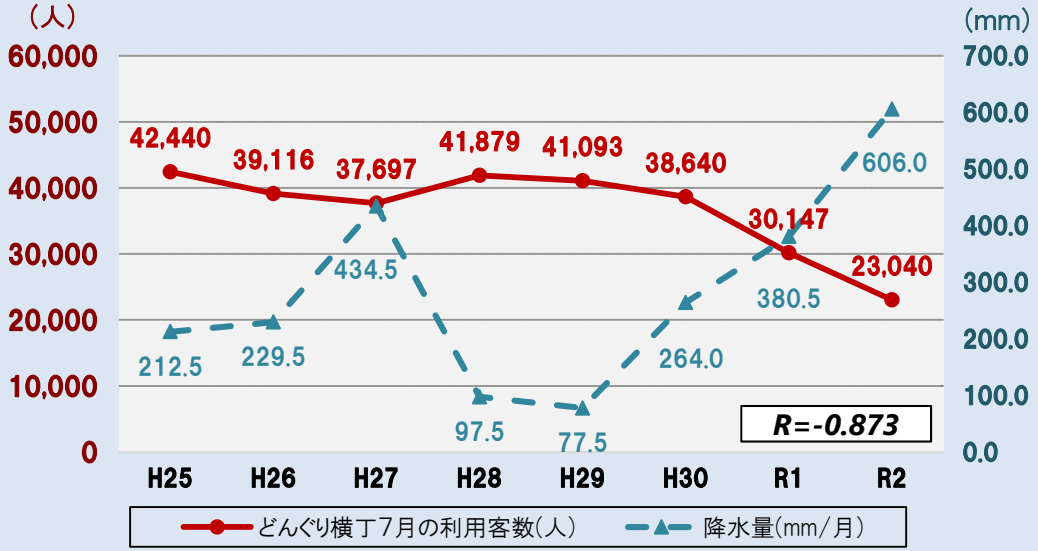
図：どんぐり横丁入込客数推移（月毎）

【参考：稲武地域の7月・10月における降水量および日照時間の推移】

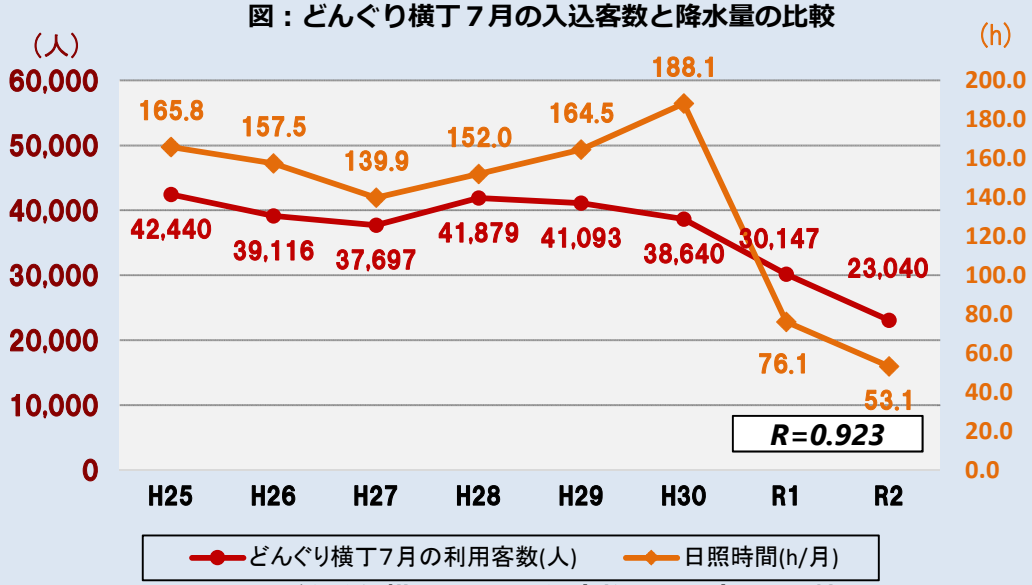
●令和元年度のどんぐり横丁の入込客数を見ると、特に７月、10月（ピーク月）において例年よりも入込客数が少なくなっている。

●気象庁HPより、７月と10月の気象状況（降水量および日照時間）を見たところ、令和元年７月・10月は、例年よりも特に天候が悪いことが読み取られた。

●どんぐり横丁入込客数と気象状況には強い相関関係がある。どんぐり横丁の７月の入込客数と気象状況との相関Rをみると、降水量はR=-0.873の強い負の相関を、日照時間はR＝0.923と強い正の相関を示している。



図：どんぐり横丁７月の入込客数と降水量の比較



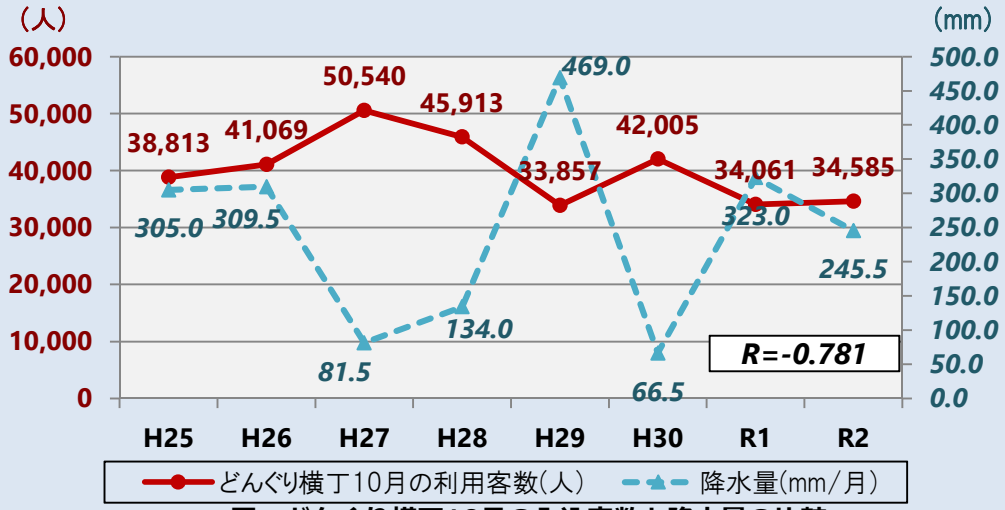
図：どんぐり横丁７月の入込客数と日照時間の比較

（参考：気象庁HP,過去の気象データ検索）

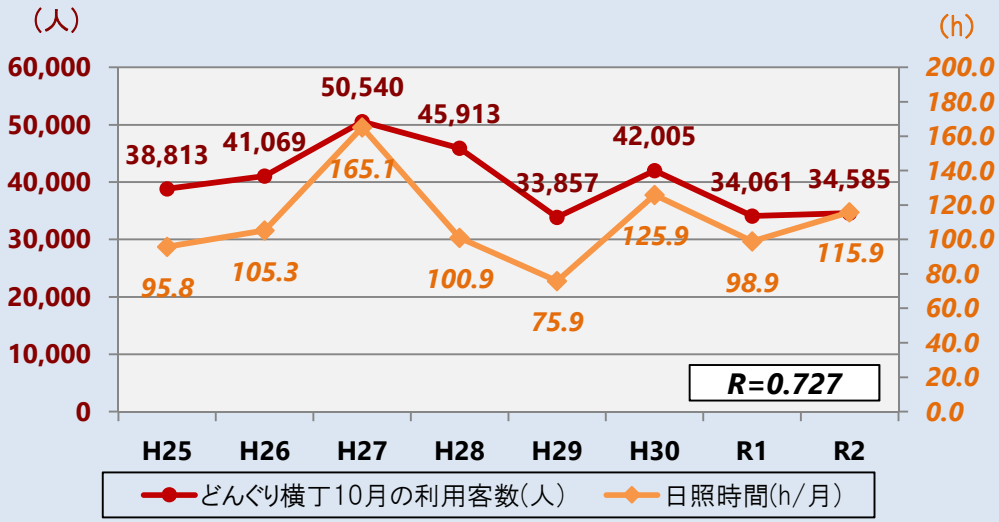
【参考：稲武地域の7月・10月における降水量および日照時間の推移】

●どんぐり横丁の10月の入込客数と気象状況との相関Rをみると、降水量はR=-0.781 の強い負の相関を、日照時間はR＝0.727と強い正の相関を示している。

●以上より、令和元年度は降水量が多く日照時間が少なかったことから入り込み客数が減少したと考えられる。



図：どんぐり横丁10月の入込客数と降水量の比較



図：どんぐり横丁10月の入込客数と日照時間の比較

（参考：気象庁HP,過去の気象データ検索）

Ⅱ定量的指標の達成状況

事業目的

①観光客に対する、稲武地域の観光の**情報発信**や**地域産業育成**

②地域住民に対する、**地方創生拠点**としての機能強化

評価指標

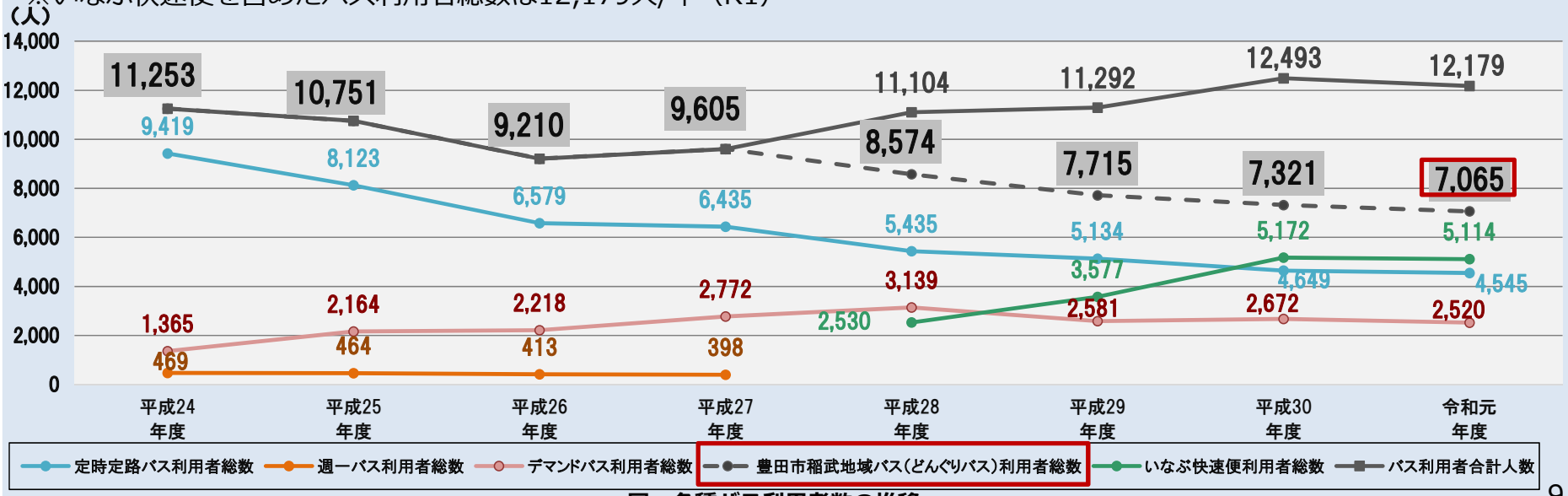
①「どんぐり横丁」の利用客数

②「どんぐりバス」の利用客数

指標②（豊田市稲武地域バス（どんぐりバス）の年間利用者数）

当初現況値(H27)	10,451人	目標値と実績値に差が出た要因	平成28年度から週一路線が廃止になったことに加え、令和元年度は、新型コロナウイルス感染症により休校になった時期があることから、通学によるバス利用者が減少したことが要因と考えられる。
最終目標値(R1)	10,451人		
最終実績値(R1)	7,065人		

※「稲武地域バス利用者数」：「定時定路線バス」「週一バス」「デマンドバス」の利用者数の総計を示す。
※いなぶ快速便を含めたバス利用者総数は12,179人/年（R1）



図：各種バス利用者数の推移

【参考1：各年度毎のバス利用者数の内訳】

●豊田市稲武地域バス（どんぐりバス）利用者数は減少傾向にある。その要因の一つに平成28年度から週一路線が廃止になったことが挙げられる。また、令和元年度においては特に押山線が32.7%と大きく減少している他、デマンドバス利用者数が大きな減少となっており、その中でも学生利用が12.8%減と大きくなっている。これは新型コロナウイルス感染症のため、学校が休校になったことが要因として考えられる。

表：各種バス利用者数の年度別内訳

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
定時定路バス利用者総数	9,419	8,123	6,579	6,435	5,435	5,134	4,649	4,545
（前年度比%）	-	-13.8%	-19.0%	-2.2%	-15.5%	-5.5%	-9.4%	-2.2%
根羽線（根羽行き）	3,792	3,123	2,539	3,032	2,935	2,870	2,514	2,868
（前年度比%）	-	-17.6%	-18.7%	19.4%	-3.2%	-2.2%	-12.4%	14.1%
根羽線（上郷行き）	1,834	1,624	1,364	1,035	574	568	604	646
（前年度比%）	-	-11.5%	-16.0%	-24.1%	-44.5%	-1.0%	6.3%	7.0%
押山線	3,793	3,376	2,676	2,368	1,926	1,696	1,531	1,031
（前年度比%）	-	-11.0%	-20.7%	-11.5%	-18.7%	-11.9%	-9.7%	-32.7%
週一バス利用者総数	469	464	413	398				
（前年度比%）	-	-1.1%	-11.0%	-3.6%	-	-	-	-
大桑線	156	189	200	209	-	-	-	-
（前年度比%）	-	21.2%	5.8%	4.5%	-	-	-	-
河上瀬線	98	103	85	133	-	-	-	-
（前年度比%）	-	5.1%	-17.5%	56.5%	-	-	-	-
川入線	215	172	128	56	-	-	-	-
（前年度比%）	-	-20.0%	-25.6%	-56.3%	-	-	-	-
デマンドバス利用者総数	1,365	2,164	2,218	2,772	3,139	2,581	2,672	2,520
（前年度比%）	-	58.5%	2.5%	25.0%	13.2%	-17.8%	3.5%	-5.7%
一般利用	553	550	622	832	1,154	965	1,032	1,090
（前年度比%）	-	-0.5%	13.1%	33.8%	38.7%	-16.4%	6.9%	5.6%
学生利用	812	1,614	1,596	1,940	1,985	1,616	1,640	1,430
（前年度比%）	-	98.8%	-1.1%	21.6%	2.3%	-18.6%	1.5%	-12.8%
豊田市稲武地域バス（どんぐりバス）利用者総数	11,253	10,751	9,210	9,605	8,574	7,715	7,321	7,065
（前年度比%）	-	-4.5%	-14.3%	4.3%	-10.7%	-10.0%	-5.1%	-3.5%
いなぶ快速便利用者総数					2,530	3,577	5,172	5,114
（前年度比%）	-	-	-	-	-	41.4%	44.6%	-1.1%
バス利用者合計人数	11,253	10,751	9,210	9,605	11,104	11,292	12,493	12,179

【参考2：月別のデマンドバス利用者数】

●令和元年度３月は新型コロナウイルス感染症対策のため休校になったことから、３月の学生によるデマンドバスの利用者数はゼロとなっており、全体としてデマンドバス利用者数が少なくなったと考えられる。

表：令和元年度の月別デマンドバス利用者数

令和元年度

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	**計**
予約運行	292	221	228	194	151	152	270	328	195	219	215	55	**2,520**
内　学生以外	132	69	68	82	143	56	102	168	67	75	73	55	**1,090**
一般実稼動日数	13/13	11/14	12/12	14/14	10/12	13/13	13/13	13/13	12/12	11/12	11/12	12/13	145/154
合計②	292	221	228	194	151	152	270	328	195	219	215	55	**2,520**
累計	292	513	741	935	1,086	1,238	1,508	1,836	2,031	2,250	2,465	2,520	
月別前年比	2%	1%	-1%	4%	47%	-39%	15%	6%	6%	-7%	-13%	-70%	
累計前年比	2%	2%	1%	1%	6%	-3%	0%	1%	1%	0%	-1%	-6%	

Ⅲ　定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況

事業目的

①観光客に対する、稲武地域の観光の**情報発信**や**地域産業育成**

評価指標

①'山里体験施設「どんぐり工房」の利用客数(※)

「指標①」を補完するその他指標：①'「どんぐり工房」の利用客数

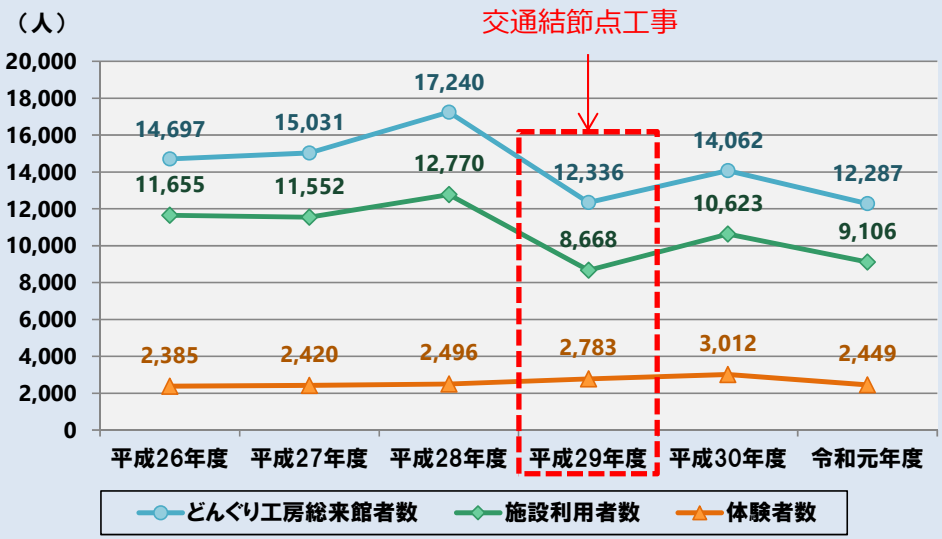


図　どんぐり工房利用者数の推移

(※)「どんぐりの里いなぶ」総利用客の内、
地域体験型エリア「どんぐり工房」の利用客数を示す。

考察

〇令和元年度のどんぐり工房における「体験型」施設の利用者数は、道の駅「どんぐりの里いなぶ」同様に利用者数の減少傾向がみられるものの、平成26年度から平成30年度にかけては概ね増加傾向にあることから、着地型観光目的の利用客の誘致を実現している。

〇令和元年度の減少の要因は、新型コロナウイルス感染症の影響で、３月の体験者数が減少したことが考えられる。

「どんぐり工房」での体験活動の様子

Ⅲ　定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況

事業目的

①観光客に対する、稲武地域の観光の**情報発信**や**地域産業育成**

評価指標

①“直売所での客単価指標

「指標①」を補完するその他指標：①“ 直売所での客単価指標

考察

〇「どんぐり横丁」の年間利用者数及び直売所売上高は減少傾向にあるものの、客単価指標は増加傾向にあり、平成26年度から令和元年度にかけては、約30円増加していることから、地域産業振興の一助となっているといえる。

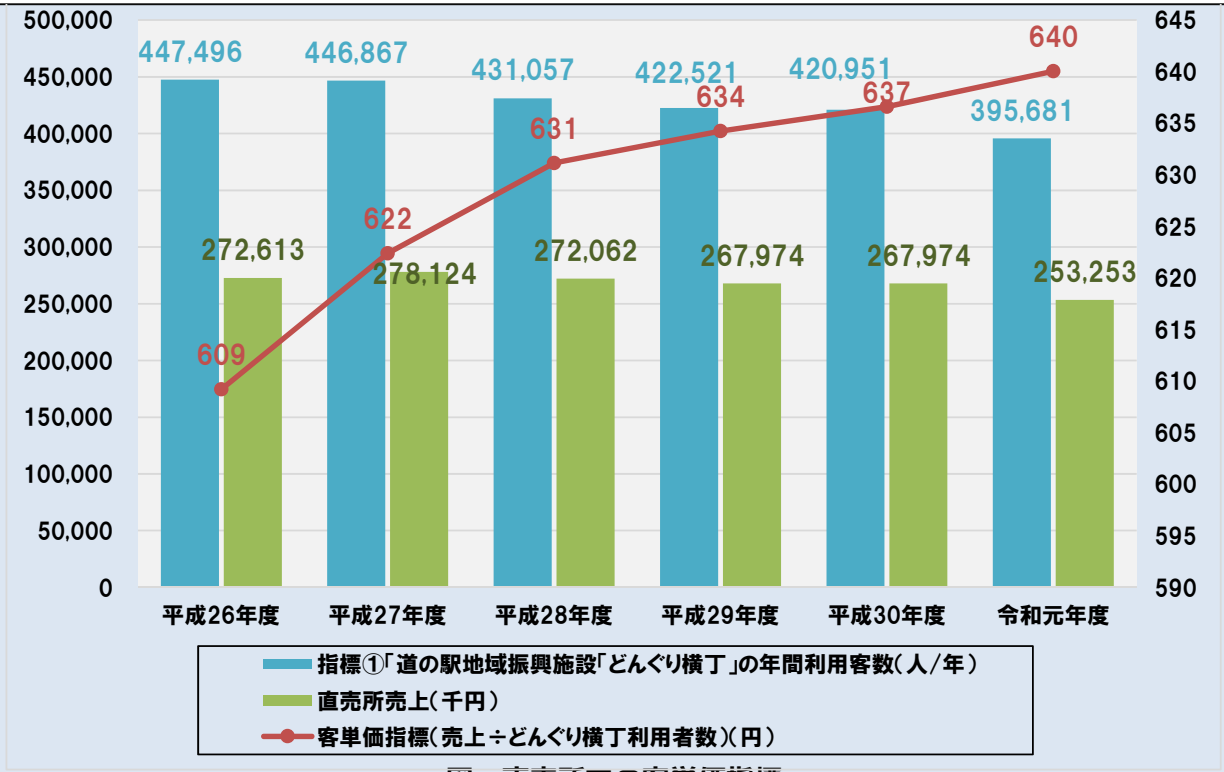


図　直売所での客単価指標

Ⅲ　定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況

事業目的
②地域住民の**地方創生拠点**としての機能強化

評価指標
指標②‘ デマンドバス利用者数
指標②’’ デマンドバスの運行日数と稼働率(※)

「指標②」を補完するその他指標：②‘デマンドバスの利用者数

考察
○平成28年をピークに利用者数は減少しているものの、平成24年度からは1,155 人（+84.6%）増加している。
○利用者数が増加傾向となっていることから、地域住民の快適かつ安全・安心な移動に寄与していると考えられる。

「指標②」を補完するその他指標：②’’デマンドバスの稼働率

考察
○平成24年度には稼働可能日の49.4%のみの稼働率であったが、令和元年度には94.2%まで増加している。
○平成24年以降、デマンドバスの利用は促進されており、地域の交通利便性の向上に繋がったと考えられる。
○さらに、**いなぶ快速便の開通により、平成30年度にかけて、バス利用者全体の人数は増加しており、豊田市市街地と稲武地域の交通ネットワークの強化に繋がった**と考えられる。

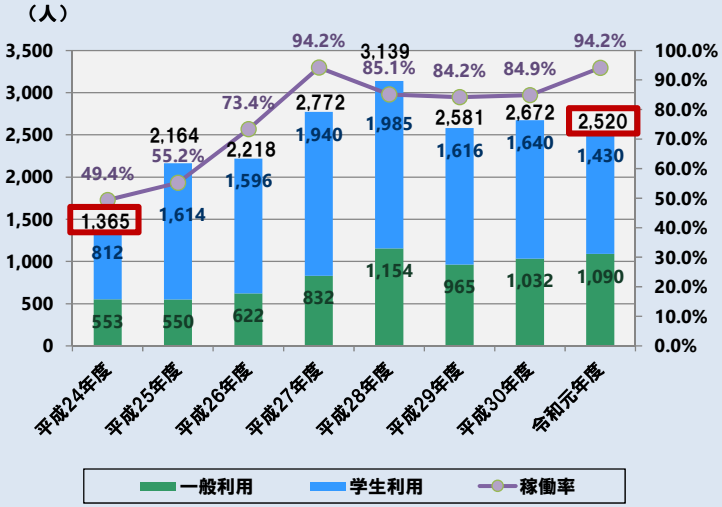


図　デマンドバス利用状況と稼働率の推移

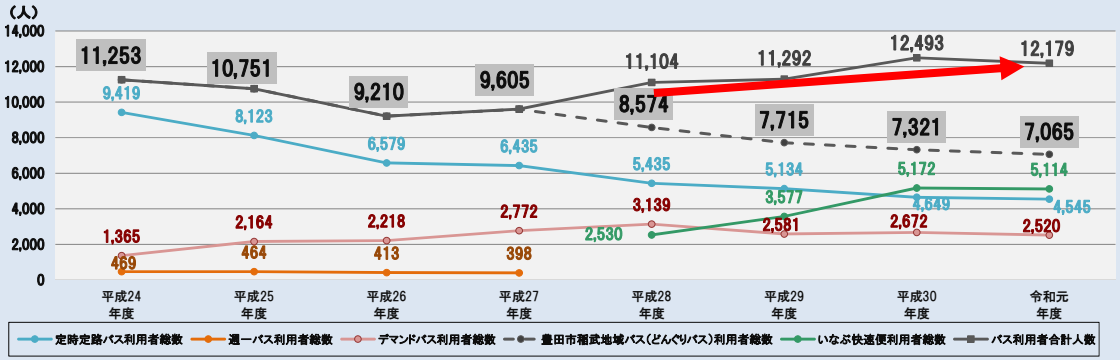


図　各種バス利用者数の推移（再掲）

（※）稼働率に関しては、運行可能日数中（月・水・金）の実稼働日数を示す。

Ⅳ　基幹事業とその他関連事業との関連性

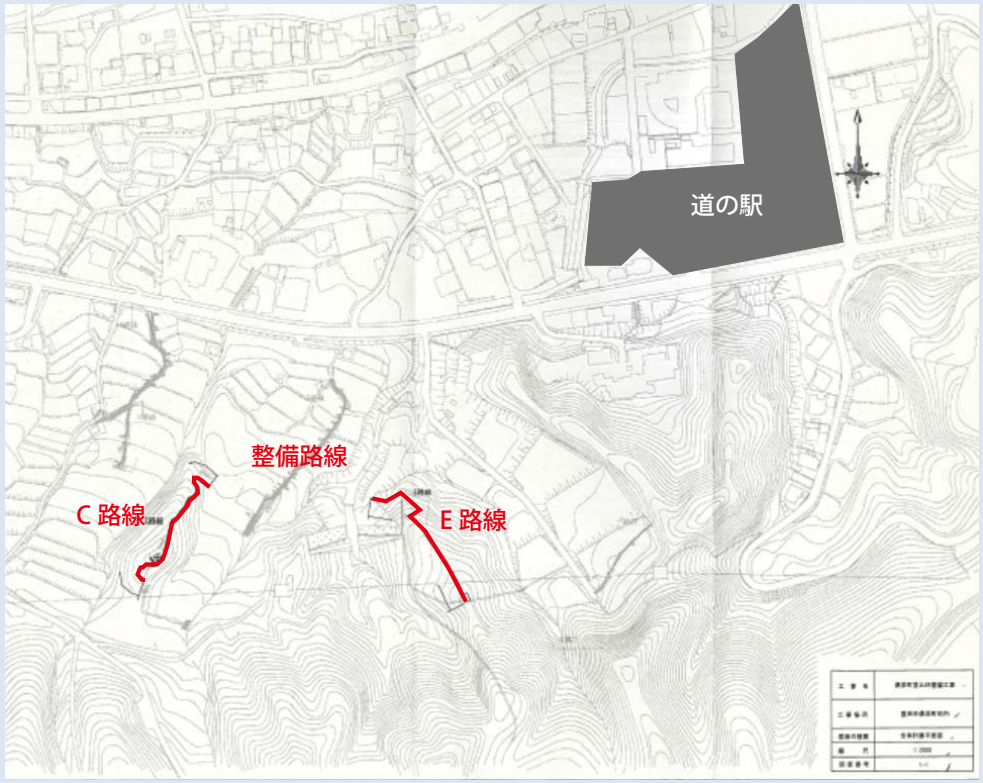
基幹事業
・道路拡幅事業
・交通結節点整備事業

→

その他関連事業
・どんぐりの里整備事業（遊歩道整備）

基幹事業である「交通結節点整備」において、「道の駅」における大型バスの乗り入れや公共交通での利便性向上により利用者の増加が見込まれると共に、「道路拡幅事業」における安全で快適な歩行空間の確保により「道の駅」周辺の周遊促進が期待されることから、どんぐりの里整備事業により整備された安全で快適な歩行空間の活用を図る。

D-1　どんぐりの里整備事業（歩道整備）



※その他関連事業として、国による「D-2道の駅整備事業」による駐車場拡張が計画されているが未実施

V　整備計画以外の新たな取組

基幹事業
・交通結節点整備事業

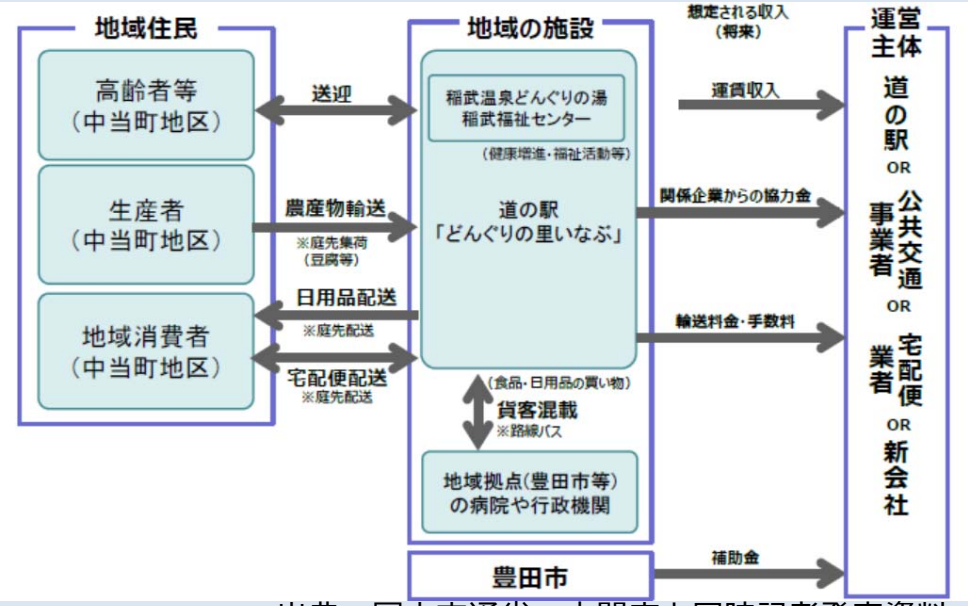
→

整備計画以外の新たな取組
・自動運転サービス実証実験の拠点

基幹事業である「交通結節点整備事業」において、バス乗降場等が整備されたことにより、自動運転サービス実証実験ルートの起点として安全に使用された。
自動運転が実用化されることになれば、道の駅利用者の更なる増加が期待され、特に高齢者等の生活路線、道の駅への農産物の庭先集荷による物流の確保、販路拡大が期待される。

実験期間	平成31年３月16日～22日
ルート	道の駅「どんぐりの里いなぶ」～中当町集会場を結ぶルート

■自動運転サービスのビジネスモデル（案）



出典：国土交通省、内閣府と同時記者発表資料

V　整備計画以外の新たな取組

基幹事業
・交通結節点整備事業

整備計画以外の新たな取組
・ウォーキング大会「歩かまい稲武」の発着点
・セントラルラリーの送迎バス乗り場

基幹事業である「交通結節点整備事業」において、バス乗降場等が整備されたことにより、ウォーキング大会「歩かまい稲武」の発着点やセントラルラリーの送迎バス乗り場として活用された。今後も、交通結節点としての機能の他、イベント等の開催の場としての活用が期待される。

■ウォーキング大会「歩かまい稲武」

■セントラルラリーの送迎バス乗り場

◆**今後の方針**

「道路拡幅事業」および「交通結節点整備事業」では、道の駅「どんぐりの里いなぶ」及び周辺施設利用者の**安全で快適に利用できる環境を創出**できたとともに、**地域住民の交通利便性向上**などに向けた整備を進めてきた。道の駅の主なターゲットは観光客であるが、今後は地元のニーズ対応の検討も進めていく。

	道路拡幅事業	交通結節点整備事業
観光利用	・**歩行者の利便性・安全性が向上**したことから「道の駅」に訪れた観光客による、まちなか商店街や武節城址等の稲武地区内への観光スポットへの**道の駅に留まらない周遊促進**が期待され、今後、道の駅からの効果的な案内・情報発信に取り組む。	・**大型バス乗入対応が可能**となったことから、観光客の増加が期待され、新型コロナウイルス感染防止に努めながら大型バス利用による観光プログラムの展開を図る。 ・バス乗降場等が整備されたことにより、ウォーキング大会「歩かまい稲武」の発着点やセントラルラリーの送迎バス乗り場として活用し、交通結節点機能の他、にぎわいの創出を図ってきた。今後、どんぐり横丁リニューアル整備事業によるキャノピー整備や売り場面積等の増加を予定しており、さらなる集客効果に向けた取組を進めていく。
地元利用	・**歩行者の利便性・安全性が向上**したことから、歩いて「道の駅」に訪れ、地域住民の健康促進と地域全体の賑わいを創出できるよう、日常的な食材の提供など地域住民向けのコンテンツを検討する。	・計６路線が乗り入れる公共交通の結節点として、稲武地域、豊田市内だけでなく、愛知県設楽町、長野県根羽村からも公共交通で利用できる地域拠点となったことから、**高齢者等の日常的な生活の足の確保、外出機会（買い物等）の増加**のため、ダイヤ改正などバスの利便性向上に取り組む。